

## 120515 第4回「国語教育法」講義感想

### タイトル集

- 国語って何？
- 国語の深みにはまる
- 日々進化！国語科教育において求められる力
- 「読解力」がつく国語科教育
- 世界へ繋がる国語科教育
- 表現とコトバ
- これからの時代の「国語科教育」
- 「読解」するのは文章だけではない。
- 今日求められている「読解力」とは
- どうして嘘をつくの？本音を言ってよ！
- あなたは「読解」できていますか？
- ”読解力”の変容～おしよせるPISA～
- 国語って何ぞや？
- 読解力を養う国語科教育
- 国語、もしくは読み解かれるもの
- 国語科教育の二つの側面
- 文も読んで絵も読む
- 現代を生き抜くための国語力養成
- 奥が深いよ国語「科」教育
- ちょっと待った！知っているか国語科教育！
- 教職を目指す人への本音とタテマエ
- 国語って何!? なんで大切なの？

### 感想集

① ●●

○「国語教育」とは何なのか、ということを改めて考えたことがなかったので、気づかされることの多い授業でした。読解力とは、書かれたものを理解することだけでなく、人の表情などを読みとったり、コミュニケーションの上でもとても重要な力であると感じました。

② ●●

○私たちは言葉を、日本語を、常日頃から使っている割にはその必要性や学ぶ意味を考えていない。改めて「コミュニケーションにおいて必要である」とか「認識・思考のためである」と言われると納得することができる。これ自体も、日本の国語教育の賜物であると感じた。

③ ●●

○以前教授にメールを送ろうとした時、自分で目上の方に手紙を書いた経験がないことに気づきました。書き方が分からなくて、結局ネットなどを使って調べたのですが、高校の教科書にはきちんと載っているのですね。時代に沿って求められる力が変わってくると思うので、それに合った教育をしたいと思いました。

④ ●●

○今日、教科書を初めて見て、このように読解力をつけるための教材が多く載っていることに驚きました。今日の授業で、国語教育の目的を理解することができ、教育実習を行う上での目標が見えた気がしました。その上で、教科書にある教材をどう生かすかが大切だと思いました。

⑤ ●●

○「建前」の方は基本的な課題で、「本音」の方はより発展的で新しい課題であるように感じた。中学生の時に「表現」という科目があり、絵を見て物語を考えて書いた覚えがあります。当時は何

気なく授業を受けていましたが、今考えると、かなり現代的なことをやっていたのではないかと思います。

6 ●●

○書かれているものを正確に読みとる能力だけでなく、自らの思いをコトバによって表現する能力をも育成することが国語科には求められているということがよく分かりました。表現を行うためには、それを形にするコトバを知らなければ話にならないので、授業や教材指導を通じてコトバを覚えさせるということも大切になってくるのかなと思いました。

7 ●●

○講義の最後の10分ほど、私は「表現メディア」から読みとる教材を初めて意識をもって見たかもしれません。中学・高校と、文章読解力、文章表現力等、受験対策能力向上を目指す授業の中において、日常会話や手紙などの表現は二の次になってしまうのでしょうか、「表現の扉」を読み、「ああ、何とものっていないことをしたのだろう」と感じました。

8 ●●

○この授業で使っている国語の教科書は、私の高校時代も使った記憶があるものですが、今回紹介された手紙を書いたり絵から文書を書いたりする教材を使った覚えは全然ありませんでした。少なくとも時間をかけてはやっていなかったと思います。課題の「本音」の方は、まだあまり重視されていないのでしょうか？

9 ●●

○PISA調査の順位が下がってきてニュースなどでピックアップされているのは見たことがありますが、求められている「読解力」も変わってきているのは知りませんでした。僕は塾の講師のアルバイトをしているのですが、最近「中高一貫校」を志望する生徒が多く、問題を見てみると「読解力」を必要とする問題がのっており、今日のPISA的な風潮があるのだと実感しました。

10 ●●

○国語科教育の本音と建前がよく分かりました。ですが、なぜ採用のための小論文では建前のことを書かなければいけないのでしょうか？ 個人的には「読解力」とメディア・リテラシー能力は今の時代にはとても大切な力だと思うので、それで書いていいと思うのですが、何か書いていけない理由があるのでしょうか？

11 ●●

○「読解力」の意味する主体的要素を持つ考え方は、とても納得のいくもの、というよりは、国語とはまさにそうあるべき授業だと思っています。しかし現在のセンター試験のように点取り合戦が軸の日本教育では、国語は「消去法」を重視するような、かつての読解力のあり方に戻っている気がします。大学受験を控えた生徒を相手にしたとしても、国語だけは本来あるべき「読解力」を養うスタイルを崩したくないです。

12 ●●

○まず日本のように「国語」というように学ばせている国がほとんどないことに驚きました。PISAはニュースで前々から大きく採り上げられていて、自分もやった記憶があります（記憶違いかも知れませんが…）国際化のために必要だと言われるのは仕方ありませんが、意義はやはり分かりません。

13 ●●

○国語教育と国語科教育のちがいを深く考えたことがなかったので、言われてみれば確かにと思うようなことが多かったです。別の授業で国語の授業を実際に作ったりしていますが、自分が漠然と国語を捉えていたんだなと気づきました。どのような力を身につけさせるのかをきちんと知り、ねらいと目的を考えていかなければならないなと思いました。

14 ●●

○今日の授業で今の中・高生たちに対してどのような教育をしていくべきかが何となくわかりました。自分の中高生だった時は無視して飛ばしたような教科書のページに、重視されるべき内容が詰まっていたのだが意外でした。

15 ●●

○「国語」と「日本語」の呼び方云々については、以前何かの本で読んだことがある気がします（確か、加藤周一の文章だったような…）。思考の基盤となる言語に関する教育を行う国語科の教師は、「教化してしまう」ということに留意すべきなのかも知れません。

16 ●●

○国語科教育の必要性について改めて再認識しました。ただ時代は移りかわっていくので、幅広く、多面的な育成を考えるべきなのだと思います。表現したり、自分の意見を述べたりする力が日本人には弱いように感じます。「読解力」の大切さはより高まると思うし、教師の授業デザインが特に影響すると思いました。

17 ●●

○読解力は、その文字の通り、読み解くだけのものだと思っていたが、それだけでなく、自分の考えを述べたりすることも求められているのだと初めて知った。絵を見てそこからわかる情報を言語化してそれを発表しあう授業とか、やってみたら面白そうだった。

18 ●●

○国語では、先生に言われた通りの課題をこなしていくばかりで、中学の時はなぜこの教科をやるのだろうかという疑問に思っていました。大学受験対策の授業では、指示語とか日本語の成り立ちのような勉強ばかりで、疑問には思わなかったですが、もっと根本的なことを重視し、「表現する力」をつけさせなければならない、言語での表現力をつけさせないと今年になってよく言われるのですが、その教育なのだなど、難しい教科だと改めて実感しました。

19 ●●

○成立当初はナショナリズム鼓舞を目的としていた「国語科」が、国際社会となった現在では、より高度な目標達成が求められるようになっている、ということが分かりました。

20 ●●

○今日学んだ国語科教育の今日的課題を踏まえた上で、もう一度国語の教科書に目を向けてみると、様々な工夫がされていることに驚くとともに、教科書の教材ってこんなに面白かったのか！と感動すら覚えました。（私自身は、そのようなページはやった記憶はなく、教科書の文って面白くないんだよなと思っていたので） それらの教材を活かすのも、授業を楽しくするのも、やり方次第なのだ改めて実感した授業でした。

21 ●●

○「読解力」などが重要視される教育というのは、単なる○×では済まされなくなるのだろうと思いました。生徒にも教師にも更なる応用力が求められるでしょう。テストの記述が増えるのではないのでしょうか。

22 ●●

○国語科教育と国語教育、国語教育と日本語教育、二つとも似ているようで意味が違っていました。なんとなくイメージはできていても、的確な言葉でその違いを説明できないということは、やはり理解できていないということだと思いました。この授業を通して国語の必要性・重要性について考えていきたいです。